



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月14日

上場会社名 株式会社エムアップホールディングス 上場取引所 東
コード番号 3661 URL http://www.m-upholdings.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤 宏一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	5,837	32.9	870	11.2	882	12.2	476	10.7
2024年3月期第1四半期	4,393	13.8	783	29.2	786	29.4	430	35.7

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 437百万円 (315.6%) 2024年3月期第1四半期 105百万円 (△74.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	13.29	13.12
2024年3月期第1四半期	11.91	11.78

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	20,286	6,896	29.7
2024年3月期	19,549	7,141	32.5

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 6,028百万円 2024年3月期 6,350百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	13.50	13.50
2025年3月期	—				
2025年3月期（予想）		0.00	—	16.50	16.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	7.7	3,400	20.3	3,400	18.6	1,800	21.5	49.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 当社グループは業績管理を年次で行っていることから通期業績予想のみを開示しております。詳細は、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社（社名）一、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期1Q	36,496,388株	2024年3月期	36,496,388株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	699,131株	2024年3月期	537,272株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期1Q	35,883,450株	2024年3月期1Q	36,157,032株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等について）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、個人消費の持ち直しや消費者マインドに一部足踏みが見られるものの、改善する雇用所得環境の下で、景気は緩やかな回復が続いております。先行きについても回復が続くことが期待されている一方で、為替相場の変動や物価上昇、それに伴う消費者マインドの変化など、景気を下押しするリスクも依然として残っております。

当社グループの事業領域であるインターネット関連市場は、通信インフラの高度化やデジタルサービスの多様化が進む中で、今後の新たなビジネスの創生とさらなる市場拡大への期待が高まっております。また、エンタテインメントの分野をはじめとした各種サービスのデジタルシフトも急速に進んでおります。

こうしたテクノロジーの進化や新たなビジネス、サービスの創出は加速しており、事業環境は目まぐるしく変化しております。

音楽やアーティスト関連の市場について、2023年の音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産金額は2,207億円（前年同期比9.1%増）と、引き続き増加しております（出所：一般社団法人日本レコード協会）。加えて、ストリーミングサービスの利用の増加に牽引され音楽配信も拡大を続けており、堅調な音楽需要に支えられ市場は拡大しております。

ライブ、コンサート市場は、2023年の公演回数が34,545回（前年同期比6.8%増）、動員数は5,632万人（前年同期比16.6%増）といずれもコロナ禍以前の水準を超えており、新設会場の稼働や海外アーティストの公演の拡大もあり、再び成長軌道へと回帰しております（出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。

音楽市場の中でも特にライブ、コンサートを筆頭とした従来からのエンタテインメントのフォーマットにおいては、デジタルシフトが急速に進み事業環境は変化しております。今後は、そうした事業環境の変化を的確に捉え、競争力を維持、向上させていくことがより重要となってきております。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストを中心としたエンタテインメント全般を事業領域とし、ファンクラブサイトを事業の軸に据えファンという強固な事業基盤を構築し、電子チケットやeコマース、キャラクター、音楽などの多岐にわたるデジタルコンテンツの配信など複合的な事業展開を行うとともに、ファンエンゲージメントの強化によって事業を拡張させてまいりました。

加えて、エンタテインメントのデジタル化、DX化など事業環境の変化に対応すべく、子会社等を通じた他社との事業提携による新規サービスの開発及び提供、並びにファンダムビジネスへの挑戦など新たな事業領域の開拓にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高5,837百万円（前年同四半期比32.9%増）、営業利益870百万円（同11.2%増）、経常利益は882百万円（同12.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は476百万円（同10.7%増）となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

1) コンテンツ事業

a. コンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等

ファンクラブ・ファンサイト事業では、主にスマートフォン向けにファンクラブサイト運営や各種デジタルコンテンツ配信、動画サービス、アプリの提供などを行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、前期に獲得、開設した大型アーティストの貢献や、新規アーティストの獲得が進んだこと、及びチケット先行など好調なライブ・コンサートとの連動施策の実施により、引き続き事業の基盤となるファンクラブ/ファンサイトの有料会員数を大きく増加させることができました。また、「Fanpla Kit」にてファンクラブのプラットフォーム化を進め、堅調に新規アーティストも獲得してまいりました。

また、エンタテインメントのDX化や将来のファンダムビジネスを見据えた新たな価値の創出やファンエンゲージメントの強化によるアーティスト活動の支援を実現するため、ファン活動の発着点となるサービス開発も積極的に実施してまいりました。

加えて、韓国発の“ファンがアーティストと二人だけのプライベートメッセージ感覚を楽しめる”コミュニケーションアプリの日本版として、「bubble for JAPAN」のサービスを開始するとともに、中国でのファンクラブ展開を加速させるなど今後のグローバル展開へ向けた取り組みも進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等の売上高は4,272百万円(前年同四半期比30.1%増)となりました。

b. コンテンツ事業に係るEC事業

EC事業につきましては、主に当社グループの運営するファンクラブサイト等を通じて、アーティストグッズとCD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品の販売やオンラインくじの提供を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、拡大したアーティスト、ファンという事業基盤に支えられ、引き続き様々な会員特典企画の実施や、コンサート会場での電子決済や事前販売・会場受取サービスなどのファンニーズに寄り添った新たなコンサートグッズの販売方法の充実により、商品取扱高を増加させ、販売は好調に推移いたしました。加えて、ファンクラブ向けのオンラインくじ「Fanpla Chance」など、新たなファン体験を提供するサービスの利用促進にも取り組んだことで、収益が大きく拡大いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るEC事業の売上高は607百万円(同53.8%増)となりました。

以上より、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業全体の売上高は4,880百万円(同32.7%増)となりました。サーバー代や人件費などのコストの増加によりセグメント利益は792百万円(同6.2%増)となりました。

2) 電子チケット事業

電子チケット事業には、電子チケット及びチケットトレード、並びにそれらに付随する各種サービスからの収益により構成されております。音楽のライブはもちろんのこと、プロ野球やフィギュアスケートといったスポーツ、遊園地などのレジャー施設まで幅広く電子チケットサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、ライブ、イベントが増加していく中で、取り扱いアーティストを着実に増やし、電子チケットの発券枚数を増加させることができました。また、電子チケット機能の外部提供も導入を拡大させることで電子チケットの普及にも努めてまいりました。

チケットトレードに関しましては、音楽にだけではなく演劇やイベントへの展開や、紙チケットの出品対応、プロ野球球団の公式チケット二次流通サービスなど、新規案件を着実に獲得し取り扱い枚数を増加させることができました。加えて、トレードに関する様々な特典を提供する月額プレミアムサービスについても有料会員数を増加させてまいりました。

アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「くじプラ」といったチケット1枚あたりのサービス単価の上昇を目的としたライブ/チケットと連動する施策やサービスについても継続的に提供を行いました。

電子チケット周辺領域のサービスといたしましては、スポーツを対象としたカードコレクションアプリにおいて、Jリーグクラブの獲得を進めるとともに、バスケットやバレーボールの選手カードの販売が好調に推移し、収益を牽引いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における電子チケット事業の売上高は952百万円(前年同四半期比35.1%増)、セグメント利益は278百万円(同31.7%増)となりました。

3) その他事業

その他事業には、上記2つのセグメントに属さない連結子会社の収益等が計上されており、主にキャラクターグッズやアパレルなどが含まれております。

当第1四半期連結累計期間におきましても、将来の収益獲得に向けた事業育成を行い、売上高は4百万円(前年同四半期比52.4%減)、セグメント損失は12百万円(前年同四半期は10百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は20,286百万円(前連結会計年度末比3.8%増)となりました。

流動資産は15,845百万円(同6.6%増)となりました。主な内訳は現金及び預金9,069百万円、売掛金2,186百万円、前払金2,369百万円であります。

固定資産は4,440百万円(同5.3%減)となりました。主な内訳は投資有価証券1,728百万円、有形固定資産1,190百万円であります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は13,183百万円(同8.1%増)となりました。主な内訳は買掛金5,348百万円及び契約負債4,663百万円であります。

固定負債は206百万円(同2.3%減)となりました。主な内訳は繰延税金負債72百万円であります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産の合計は6,896百万円(同3.4%減)となりました。主な内訳は資本金317百万円、資本剰余金3,815百万円、利益剰余金3,770百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、緩やかな回復が続くことが期待されているものの、一部には足踏みも見られ、また為替相場の変動やそれに伴う原材料やエネルギー価格の高騰と物価上昇、中東情勢など国内外に経済を下振れさせるリスクも懸念されており、先行きには注意が必要となっております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、通信インフラの高度化やデジタルサービスの多様化が進み、市場も大きく拡大しており、モバイル及びインターネット関連ビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

音楽やアーティスト関連市場については、公演数、動員数ともにコロナ禍前を越え過去最高となっており、再び成長軌道に回帰しております。

こうした事業環境の中、当社はファンという強固な顧客基盤を持ち、技術及び市場動向の影響を受けにくい、アーティストを中心としたファンクラブ/ファンサイトを事業の軸に据え、有料会員数を増加させるべく新規アーティスト等の継続的な発掘と獲得を行っております。また、電子チケットとチケットトレード、ECといった各種サービスとも連動させることで、ファンエンゲージメントをさらに高め、顧客であるファン一人あたりの売上高を上昇させることでさらなる成長を目指しております。

コンテンツ事業においては、会員獲得の間口を広げるべく、アーティストとファンの距離をより近づけ、ファンクラブ入会への動機づけをするためのポータルメディア「Fanpla」や、アーティストの規模に関わらずアーティストなら誰でもファンクラブを開設することのできるサービスとして「Fanpla Kit」も提供し、ファンクラブのメディア化、プラットフォーム化を進めております。

営業体制の強化によって新規アーティストの獲得を加速させるとともに、これまでのファンクラブ運営で蓄積してきた様々な事例やデータを活用しアーティストへの最適な提案を行うことで、有料会員数の増加も図っております。

加えて、日本市場で活躍するKPOPアーティストのファンビジネスを活性化することを目的とし、プライベートメッセージサービスを提供する韓国企業と提携し、ファンプラットフォーム事業を開始するとともに、中国でのファンクラブ及びEC展開も本格化させるなど今後グローバル展開へ向けた取り組みも活性化させてまいります。

電子チケット分野においても、取り扱い枚数を増加させるべくアーティストの獲得を進めると同時に、電子チケットの機能の外部提供も拡大させることで、電子チケットの普及にも努めてまいります。また、演劇やイベント、スポーツ領域の開拓や紙チケットのトレード出品対応、プロ野球チケットのリセールなども実施し、案件数の拡大も図っております。加えて、大手プレイガイドとのさらなる連携についても引き続き推進してまいります。

プロ野球等のスポーツ向け「カードコレクション」や、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「メモコレ」、1 on 1 イベントを実現するライブトークアプリ「Meet Pass ライブトーク」など、電子チケット周辺領域のサービスを拡充させることで顧客単価の上昇に取り組んでまいります。

加えて、VRを中心とした先端表現技術を用いたライブ動画の制作や配信、Web3を活用した次世代ファンダム形成への取り組み、子会社等を通じた他社との事業提携など、新規事業の開発にも積極的に取り組んでまいります。

以上の通り当社は、ファンという強固な事業基盤をベースにししながら、有料会員数を継続的に増加させることと並行して、ファンエンゲージメントの強化と新規事業の展開により顧客価値を増大させることで、より一層の事業成長を目指しております。また、ECや一次流通及び二次流通の電子チケットなど、収益性の高い事業からの売上構成割合が拡大していくことで、全社的な収益率も向上させてまいります。

費用面では、販売に比例し発生するロイヤリティやドル建て決済のため為替相場の変動の影響を受けるサーバー代、業容の拡大に伴う採用の強化と賃金の上昇による人材関連費用の増加、オフィスの増床に伴う賃料の増加、新規事業への開発投資などを見込んでおります。

以上により、今期(2025年3月期)の見通しについては、売上高20,000百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益3,400百万円(前年同期比20.3%増)、経常利益3,400百万円(前年同期比18.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,800百万円(前年同期比21.5%増)を見込んでおります。

当第1四半期連結累計期間については、前期3月に獲得、開設した大型アーティストのファンクラブに牽引され、また新たなファンクラブの開設と既存ファンクラブの会員獲得も好調であったことから、引き続き有料会員数

が大きく増加したことで、売上高は業績見通しに対して高い進捗率となっております。事業基盤となる有料会員数のベースが上がっていることから、今後についてもこのトレンドが継続するものと想定しております。今後も新たなファンクラブの開設も予定しており、また、韓国ファンプラットフォーム企業との合弁会社による新規サービスの開始や、中国でのファンクラブ展開も順調に進んでいることから、業績予想については今後の事業動向を踏まえて適宜見直していく方針です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,780	9,069
売掛金	2,561	2,186
商品	21	61
仕掛品	1	1
貯蔵品	19	44
前払金	1,755	2,369
未収入金	865	720
その他	858	1,392
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	14,861	15,845
固定資産		
有形固定資産	1,204	1,190
無形固定資産		
のれん	109	54
顧客関連資産	180	167
その他	409	402
無形固定資産合計	699	624
投資その他の資産		
投資有価証券	1,846	1,728
その他	999	955
貸倒引当金	△61	△59
投資その他の資産合計	2,783	2,625
固定資産合計	4,687	4,440
資産合計	19,549	20,286
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,853	5,348
未払金	1,785	1,586
未払法人税等	659	205
預り金	243	459
契約負債	4,177	4,663
賞与引当金	54	14
役員賞与引当金	179	56
その他	243	849
流動負債合計	12,196	13,183
固定負債		
資産除去債務	124	124
繰延税金負債	77	72
その他	9	9
固定負債合計	211	206
負債合計	12,407	13,390
純資産の部		
株主資本		
資本金	317	317
資本剰余金	3,815	3,815
利益剰余金	3,776	3,770
自己株式	△440	△640
株主資本合計	7,468	7,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,118	△1,234
その他の包括利益累計額合計	△1,118	△1,234
新株予約権	30	30
非支配株主持分	760	836
純資産合計	7,141	6,896
負債純資産合計	19,549	20,286

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	4,393	5,837
売上原価	2,848	4,084
売上総利益	1,545	1,753
販売費及び一般管理費	762	882
営業利益	783	870
営業外収益		
受取賃貸料	0	8
受取手数料	3	1
業務受託手数料	1	-
その他	0	3
営業外収益合計	5	13
営業外費用		
支払手数料	1	0
その他	0	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	786	882
税金等調整前四半期純利益	786	882
法人税、住民税及び事業税	170	196
法人税等調整額	117	133
法人税等合計	288	329
四半期純利益	498	553
非支配株主に帰属する四半期純利益	68	△76
親会社株主に帰属する四半期純利益	430	476

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	498	553
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△393	△115
その他の包括利益合計	△393	△115
四半期包括利益	105	437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37	361
非支配株主に係る四半期包括利益	68	76

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	67百万円	60百万円
のれんの償却額	54	54

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,679	704	4,383	9	4,393	-	4,393
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	6	17	1	19	△19	-
計	3,689	711	4,401	10	4,412	△19	4,393
セグメント利益又は損失(△)	745	211	957	△10	946	△163	783

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△163百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△157百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,880	952	5,832	4	5,837	-	5,837
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22	7	29	0	29	△29	-
計	4,903	959	5,862	4	5,867	△29	5,837
セグメント利益又は損失(△)	792	278	1,070	△12	1,057	△187	870

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△187百万円には、セグメント間取引消去△8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△179百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。